

Slovenia Monthly June 2021

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2021年7月1日



～6月の主なポイント～

- 内 政： ディカウチッチ新法務大臣が就任
独立30周年記念式典の開催
- 外 政： 政府、EU議長国プログラムを採択
- 経 済： リュブリャナ空港新旅客ターミナルが完成
- コロナ： 新型コロナウイルス感染症流行宣言の解除
- スポーツ：スロベニア人プレーヤー、テニス全仏オープンで躍進

政治

【内政】

●新法務大臣の就任【15日】

15日、国民議会はディカウチッチ法務大臣の任命を賛成多数(賛成44票、反対41票)で承認した。ディカウチッチ法務大臣は、政府が欧州委任検察官2名の候補者選出手続を無効にしたことに抗議し、辞任したコズロビッチ前法務大臣の後任となる。議会による承認後、ディカウチッチ新大臣は、法務省の業務計画は既に大枠が決定されており、また、スロベニアがEU議長国を務めるため活動には限度があるが、今後の課題として、破産法の改革、個人データの保護に関する法律、憲法裁判所の決定を実施するための法律を挙げた。また、ディカウチッチ新大臣を指名した現代中央党(SMC)は、同大臣は広い視野を持ち、正義を主眼に置きつつ司法の独立のために働くことのできる人物であるとした。

ディカウチッチ新大臣は、2006年に法学部を卒業、リュブリャナ高裁の研修生を務めた後、2009年に司法試験に合格し、民間に就職、その後破産管財人の試験に合格し、管財人として職務についてきた人物で、政界に入るのは今回が初めてとなる。



ディカウチッチ法務大臣 (Photo: Nik Jevšnik/ STA)

●民主党党首選、ヤンシャ党首が再任【19日】

19日、4年に1度の民主党(SDS)党首選が行われ、ヤンシャ党首(首相)が代表656人中650人の圧倒的支持を得て、党首に再任された。今般の党首選は1993年より同党党首を務めるヤンシャ首相が唯一の候補者であった。党首再選後、ヤンシャ党首は、同党首の世代は引き続き多く貢献を行うことができるが、今後党の若い層からも多くを期待すると述べ、来年には議会選挙が控えており、多くの候補者が必要となることから、皆にチャンスが与えられると述べた。

●年金者党党首選、ヤスニッチ氏が新党首に就任【19日】

19日、年金者党(DeSUS)の党首選が行われ、ヤスニッチ元党幹事長が117票中54票を得て、2人の候補者を破り党首に選出された。また、副党首にはビズヤク＝ムラカル氏が選ばれた。同党党首の座は、本年3月にエリヤヴェツ党首が辞任及び離党を表明した後、不在となっていた。新党首選出後、ヤスニッチ新党首は、可能であれば連立与党にいたることが党の利益であると述べつつも、まずは党内で同党が重視する価値観につき一致することが必要であり、それにより政府の各施策に対する党の立場を決めることができると述べた。また、同新党首は、(党と同党所属議員の間で対立が続いていた状況につき)党と所属議員の関係が良好であることが重要であるとして、党は議会で議論されるあらゆる重要課題に対して明確な立場を取るべきであり、それにより所属議員が党の方針に従うことが期待できると述べた。



ヤスニッチ新党首 (Photo: Jure Makovec/ STA)

●独立30周年記念式典【25日】

25日、スロベニアの独立30周年記念式典がリュブリャナの共和国広場で開催された。式典においてスピーチを行ったパホル大統領は、意見の相違は常に存在し、スロベニアが独立する際にもそれは存在していたが、協調の結果として独立を達成することができたと述べ、独立30周年を記念する今こそが、独立時、EU・NATO加盟時に次ぐ、3度目の国家的コンセンサスを形成するときであるとして、今後30年のスロベニア国家のあり方として、グリーン、デジタル、経済的に持続可能な発展に関するコンセンサスを形成する必要があると述べた。また、同式典の中では、象徴的にEU議長国の引継ぎが行われ、ポルトガルのサントス・シルヴァ外相からヤンシャ首相に対し、EU議長国が引き継がれた。ヤンシャ首相は、今回スロベニアは2度目のEU議長国就任となるため、前回の経験から何が上手いって何が上手いかわからないかは把握しているとして、ダブルスタンダードは分裂を招くものであり、全員に平等な基準が適用されるように戦っていくと述

べた。なお、同式典には、ミシェル欧州理事会議長のほか、オーストリア、クロアチア、ハンガリーの首相、イタリア及びポルトガルの外相が参列し、独立30周年に際する祝意を述べた。その他、大統領府は、イタリア、オーストリア、クロアチア、ドイツ、チェコ、ロシア、日本、ベルギー、スイス、米国等、多くの国の首脳から祝辞が寄せられた旨発表した。



(Photo: STA)



(Photo: Daniel Novakovič/ STA)

【外政】

●年次外交総会の開催【5月31日～6月1日】

5月31日～6月1日、スロベニア外務省幹部、各国に駐在するスロベニア大使及び総領事を集めた年次外交総会がブルドー・プリ・クラニューで開催された。総会2日目の6月1日、ヤンシャ首相がスピーチを行い、今後のEUの主要な課題として新型コロナウイルスの影響からの復興及び西バルカン諸国へのEU拡大を含むEUの戦略的目標の設定を挙げた。同首相は、EUが拡大しなかった場合、その他の勢力が入りこんでくることになるだろうと述べ、そのような事態がバルカン地域やEUの東方で見られるとして、EUが迷っている時間が長いほど問題は大きくなると警告した。

●政府、EU議長国プログラムを採択【2日】

2日、スロベニア政府は、本年後半のEU議長国期間中のプログラムを閣議決定した。プログラムは4つの主要テーマに区分されており、政府発表のプレスリリースの概要は以下のとおり。

① EUのレジリエンス復興及び戦略的自治

危機に対するEUのレジリエンスを強化し、デジタル及びグリーントランジションに基づいて経済を復興させる。

② 欧州の将来に関する会議

欧州理事会、欧州委員会及び欧州議会の協力によって実施される本件会議の目的は、市民、各国の議会及び他関係機関との対話である。

③ 欧州の生活様式・法の支配及び平等についての同盟

法の支配に関する欧州委員会の年次報告書に基づき、スロベニアは欧州理事会の年次対話、具体的にはEU内の法の支配の現状についての一般的議論及び各加盟国についての議論を実施する。本件対話は各加盟国を欧州の価値のコミュニティに導く。

④ 近隣においても安全保障と安定を保障することのできる、信頼のおける安全なEU

スロベニアは議長国としてEUの利益及び価値の世界における効果的促進に貢献する。EUの対外関係においては、主要な優先事項は大西洋横断関係の強化と、西バルカン諸国のEU加盟促進支援である。スロベニアは欧州理事会をEU拡大プロセスの継続及び(西バルカン)地域の各国の欧州への展望強化の方向に導く予定。

●EU議長国スローガン及びロゴの決定【4日】

4日、政府は本年後半のEU議長国就任に際するスローガン及びロゴマークを発表した。スローガンは「Together. Resilient. Europe」で、政府広報部によると、EUが抱える課題への対応及び将来の発展を考慮して決定されたとのこと。ロゴについてはトリグラウ山にスロベニア国旗が描かれ、また、EU旗からは7つの

星が記されているが、これは平和を呼びかけるスロベニア国歌に「祝杯(Zdravljica)」第7連が採用されていることを踏まえたもの。その他、スロベニアのEU議長国の特別サイトが開設された。サイトアドレスは以下のとおり。

www.si2021.eu/en/



スロベニアEU議長国ロゴマーク

(Photo: www.si2021.eu/en/)

●ロガル外相、韓国を訪問【7日～8日】

ロガル外相は韓国を訪問し、8日、鄭義溶・韓国外相と会談を行った。ロガル外相は、韓国との政治的・経済的結びつきの一層の強化がスロベニアの利益である旨強調し、その観点から、スロベニアはソウルに大使館を開設する旨述べた。同外相は、より強固な二国間の投資協力、ひいては首都リュブリャナに大韓貿易投資振興公社(KOTRA)支部を再設置することを呼びかけた。また、両者は、来年外交関係開設30周年を迎え、国際場裏における重要課題に対して類似の見解を有する両国の友好関係を確認した。ロガル外相は、EU議長国期間中の優先課題を説明したほか、(スロベニアの国際NGOである)ITFや人権及び法の支配におけるその他の多国間イニシアティブにおける協力に関し、鄭外相に謝意を表明した。その他、両者は、朝鮮半島、インド太平洋の現状及びスロベニアのEU議長国期間中の優先外交事項である西バルカンにつき意見交換を行った。

2日間の韓国滞在中、ロガル外相は大韓貿易投資振興公社社長、在韓欧州商工会議所会頭、議会関係者、韓国商工会議所(KCCI)関係者、駐韓EU代表部大使及び数名のEU加盟国の駐韓大使等と会談した。また、一部の会談には、ソウルに出張中のザデル・スロベニア商工会議所理事会議長/コペル港湾会社社長が参加した。会談参加者は、韓国企業による中欧への輸出の玄関口としてのコペル港の重要性を評価した。

●スロベニア、キリバスと外交関係開設【9日】

スロベニアがキリバスと外交関係を開設した。外交関係開設は、双方の領土一体性及び主権を尊重しつつ友好関係及び協力の促進を目的としたもの。外交

関係開設に関する文書は、ニューヨークの両国の国連代表部の大使により署名された。

●スイス大統領のスロベニア訪問【8日～9日】

スイスのパルムラン大統領兼経済・教育・研究大臣がスロベニアを訪問し、パホル大統領と会談を行った。会談後の記者会見において、パホル大統領は、両国はアルプス及び雄大な自然を有し、持続可能な発展に取り組んでいること及び両国が重要な貿易投資相手であること等に触れつつ、AIやグリーンテクノロジーを含めた科学技術分野での協力促進への期待を表明した。また、会談ではEU・スイス関係についても意見交換が行われ、パホル大統領は、両国はヨーロッパの中心に位置しており、スイスはEU加盟国ではないが、文化・歴史・価値観を共有する重要なパートナーであると述べたほか、EU・スイス間の枠組み協定が依然として妥結されていないことは残念であると述べ、協定締結に向けた新たな方法を模索する必要があると述べた。

なお、大統領会談が行われた前日の8日、両大統領はスイスが拠出した結束基金により支援されたプロジェクトの現地視察を行った。



(Photo: Anže Malovrh/ STA)

●ロガル外相、フランスを訪問【18日】

ロガル外相はフランスを訪問し、ル・ドリアン外相と会談を行った。スロベニアは2021年後半、フランスは2022年前半のEU議長国に就任予定であることから、両者は「欧州の将来に関する会議」、移民・難民に関する新協定、EUにおけるグリーントランジション、西バルカン諸国へのEU拡大など、主にEUの各種案件についての意見交換を行った。その他、両者は、トルコ、東地中海、ベラルーシ、サヘル、マリ等の各地域情勢についても意見交換を行った。

経済

●スロベニア、中国と家禽肉輸出に関する覚書に署名【7日】

7日、スロベニア・中国当局間で、スロベニアから中国への家禽肉輸出に関する議定書に署名された。7日～8日の日程で、中国海関総署は、第5回中国・中東欧諸国間の税関、検査、監査及び検疫に関するビデオ会議を開催しており、同会議の機会を利用し、農林食料相と中国海関総署長が議定書に署名を行った。ポドゴルシェク農林食料相は、議定書署名に満足の意を表し、近々、両国当局間でスロベニアから中国への豚肉輸出についての議定書にも署名予定であると述べた。また、同大臣は、中国は引き続きアジア地域におけるスロベニアの最も重要な貿易相手国であり、両国の農産品・食品の貿易額が増加している旨述べたほか、スロベニアはすでに、牛乳、魚の缶詰、蜂蜜などの動物由来の特定の製品の輸出についても中国側の認可を得ていると述べた。

●ハンガリー企業、スロベニア国内のOMVサービスステーションを買収【8日】

ハンガリーの石油・ガス企業「MOL」が、オーストリア企業「OMV」が有するスロベニア国内のサービスステーションを買収することを発表した。MOL社は、OMVスロベニアの92.25%の株を取得する（残りの7.75%については、MOLが49%を所有するINA社がすでに所有）。買収額は3億100万ユーロとなる見込み。MOL社は、OMVスロベニアの買収は中東欧における同社のサービスステーション・ネットワーク拡大という戦略的目標に則ったものであるとコメントした。MOL社は同社の名前の下でスロベニア国内に48のサービスステーション、INA社は5つのサービスステーションを有しており、OMVスロベニアの買収により、ペトル社に次ぎスロベニア国内のマーケットシェアは第二位となる。



(Photo: sloveniatimes.com)

●ファーウェイ社、中・東欧向けロジスティックセンター設置を決定【10日】

中国ファーウェイ社は、スロベニアに中東欧諸国向けの地域ロジスティクスセンターを設置予定である旨を発表した。これにより、コペル港を通じた物流の増加が見込まれるほか、リュブリャナ空港近くの倉庫が拡張される。リュブリャナ空港付近の倉庫拡張は2段階に分けて行われ、まず、既存の倉庫が4千㎡に拡張され、その後6千㎡まで拡張が予定されている。ファーウェイ社によると、EU加盟国13か国及びEU未加盟国6か国向けの物流はコペル港及びリュブリャナ空港を通じて行われる。投資総額は約900万ユーロとされており、更に拡大する可能性もある。Zhangファーウェイ・スロベニア社長は、本決定は同社のスロベニア市場への長期的コミットメントを再確認するとともに、170か国以上で活動する同社の戦略的地図においてスロベニアの立場を強めるものであると述べ、同投資によりスロベニアで約40名の新規雇用が生まれると述べた。ファーウェイ社は、コペル港を通じて中国からハンガリー及びその他の欧州市場にすでに18万5千立方メートルの貨物を輸送している。スロベニアにおける新ロジスティクスセンター設置により、EUの顧客への納品期間が短縮される予定。

●国内初のリチウムイオン電池製造工場建設計画【14日】

車両用バッテリー製造「TAB」社は、中国企業「Haidi Energy Technology」とのジョイントベンチャーで、国内北部プレヴァリエに国内初のリチウムイオン電池製造工場を建設すると発表した。本投資では「Haidi Energy Technology」社が技術・ノウハウを提供し、「TAB」社が工場施設や機材整備、従業員確保等を行う。投資総額は約1億ユーロで、約300人の新規雇用が予定している。工場稼働は2022年春の予定。同工場で製造されるリチウムイオン電池は家庭・産業施設用であるが、「TAB」社は電気自動車市場への参入も視野に入れているとのこと。

●スロベニアのSDGs達成度、前年から3つ順位を上げ9位【14日】

ケンブリッジ大学、ベルステルマン財団、持続可能な開発ソリューション・ネットワーク等が作成した2021年版の持続可能な開発目標の達成度に関する報告書が発表された。それによると、スロベニアの達成指数は81.6で、対象165か国・地域中で前年より3つ順位を上げ、9位となった（前年のスロベニアの達成指数は79.8）。スロベニアは前年と同様、目標1の「No Poverty」と目標16の「Peace, Justice and Strong Institutions」で目標達成との評価がなされ、また、課題が残っているとされる分野でもその多くの分野で向上が見られた。一方、目標2「Zero Hunger」、

目標12「Responsible Consumption and Production」、目標13「Climate Action」については主要な課題が残っていると評価され、特に目標13は向上が見られず停滞しているとされた。なお、達成度に関する全体順位では、1位フィンランド、2位スウェーデン、3位デンマーク、4位ドイツ、5位ベルギーで、日本は指数79.8で18位であった。

●リュブリャナ空港新旅客ターミナルが完成【16日】

16日、リュブリャナ空港の新旅客ターミナルの完成式典が行われた。新ターミナル完成により、空港敷地面積が1万㎡拡張され、同空港は1時間で1200人以上の乗客を処理することが可能となる。同拡張工事は2019年7月に開始されたもので、工事費用は1700万ユーロ、機材導入にも400万ユーロが費やされている。新ターミナルは、スロベニアがEU議長国に就任する7月1日に営業が開始される。式典に参加したヤンシャ首相は、スロベニアは空港に高い期待を寄せており、政府は首都リュブリャナと空港を結ぶ鉄道路線建設を含む空港の将来的な発展計画をサポートしていくと述べた。



(Photo: www.gov.si)

●世界競争ランキング、スロベニアは前年からランクダウン【17日】

スイスを拠点とするビジネススクールのIMDが毎年作成している世界競争ランキングの2021年版が発表された。スロベニアは、前年より5つ順位を落とし、対象64か国中40位であった。スロベニアは、貿易（9位）、物価（11位）、教育（22位）、社会的枠組み（23位）等の項目で高評価を得たものの、公共財政（48位）、労働市場（48位）、国際投資（54位）、取組・価値観（54位）等の評価が振るわなかった。なお、全体順位では1位スイス、2位スウェーデン、3位デンマーク、4位オランダで、前回首位のシンガポールは5位となった。日本は前回から3つ順位を上げ、31位であった。

●コペル港のコンテナターミナル拡張【23日】

23日、コペル港のコンテナターミナル第一埠頭(Quay I)の拡張部開設式典が行われた。今回の拡張部分は長さ100メートル、幅35メートル。コペル港湾会社のザデル社長は、拡張部分開設を歓迎するとともに、第一埠頭の拡張は新たな始まりであり、2万5千㎡の倉庫エリアの建設が進行中であると述べ、2022年上半に完工予定の同エリアが完成すれば、同港のコンテナターミナルのキャパシティが大幅に増加すると述べた。



(Photo: Mitja Volčanšek/ STA)

●EBRD、スロベニアのGDP成長予測を上方修正【29日】

欧州復興開発銀行(EBRD)は、最新のGDP成長見通しを発表し、本年のスロベニアの成長予測をこれまでの3.5%から5.0%に上方修正を行った。また、翌2022年の成長予測については、4.0%とした。

治安・軍事

●国境警備専門の警官隊の設置【15日】

スロベニア東部ブレジツェにおいて、国境警備に特化した警官隊が新たに組織された。同警官隊は、まずは23名で構成されるが、今後52名までの増員が予定されている。結成式において、ホイス内相は、不法移民の渡航は減少しているように見えるが、世界的に見ると、今後増加が見込まれると述べ、ブレジツェ近郊の国境は特に(不法移民越境増加の)危険があるため、今こそ適切に備えておくタイミングであると述べた。なお、新設された警官隊は、国境を超える犯罪、不法移民、人身売買、渡航文書偽造等への対策も含めた国境警備全般業務を担当する。

新型コロナウイルス関連情報

●6月30日時点におけるスロベニア国内の新型コロナウイルスの感染状況【30日】

6月30日時点において、スロベニア国内で新型コロナウイルスへの感染が確認されている人数は累計257,370名で、死者は計4,749名となっている。30日時点での地域別の累計感染者は以下となっている。

地域	感染者数
スロベニア中心部	63,440
ドレンスカ・ベラクライナ地方	19,704
サヴィンスカ地方	34,201
ポドラウスカ地方	38,485
ゴレンスカ地方	26,878
ポムルスカ地方	15,970
オバルノ・クラシュカ地方	11,479
ゴリシュカ地方	12,572
コロシュカ地方	9,642
プリモルスコ・トランスカ地方	6,244
ポサウスカ地方	10,005
ザサウスカ地方	6,991
その他調査中	1,759

●新型コロナウイルス感染症流行宣言の解除【16日】

スロベニア政府は、昨年10月より継続していた感染症流行宣言を延長しないことを決定し、6月15日24時をもって同宣言が解除された。なお、流行宣言は解除されたが、ポクルカル保健大臣は「新型コロナウイルスの脅威はまだ終息したわけではない」と述べ、引き続きの注意及びワクチン接種を国民に呼びかけた。また、宣言解除の時点で適用されている各種制限措置及び感染予防措置についても引き続き継続される。

●新型コロナウイルスによる死者数、8か月振りにゼロに【17日】

6月17日の新型コロナウイルスによる死者数が、昨年10月10日以来初めて0人となった。また、同日の新規感染者数は83名で、これにより過去7日間及び14日間の感染者数の割合は人口10万人あたりで100人を下回った。

社会・文化・スポーツ

●スロベニアの海水浴場の水質に高評価【1日】

2020年版の欧州海水浴場水質報告書が発表され、スロベニアは国内全ての海水浴場が、海水浴に適しているとの評価を得た。評価は「Excellent」、「Good」、「Sufficient」、「Poor」の4段階でなされ、スロベニア国内の（海岸線及び内陸部も合わせた）計47の海水浴場について、40の浴場が「Excellent」、4浴場が「Good」、3浴場が「Sufficient」と評価された。スロベニア環境庁(ARSO)は、特にスロベニアの（内陸部ではなく）海岸線の海水浴場は2年前まで全て「Excellent」の評価を得ていたが、2019年に汚染が発見されたジュステルナ(Žusterna)の水質だけは、現在も「Sufficient」と評価されていると説明した。

●ポストイナ鍾乳洞が営業再開【9日】

スロベニアの観光名所のひとつであるポストイナ鍾乳洞が、231日間の閉鎖を経て営業を再開した。同鍾乳洞は、新型コロナウイルスの流行による制限措置により閉鎖を余儀なくされていたが、スロベニア観光協会(STO)より訪問者に対する安全な環境及び感染予防が確保されたことを証明する「Green&Safe」証明書を取得するなどの安全措置を図ったとのこと。なお、同鍾乳洞の営業再開に伴い、改装された「Hotel Jama」が6月18日に、プレドヤマ城が6月末に再開する。



(Photo: Postojnska Jama)

●ジダンシエク選手、テニス全仏オープンで躍進【10日】

テニス全仏オープン的女子シングルスにおいて、スロベニアのタマラ・ジダンシエク選手が躍進した。同選手は、女子シングルス準決勝でロシアのパブリウチェンコワ選手にセットカウント2-0(5:7、3:6)で敗れ、惜しくも決勝進出を逃したものの、テニス4大会シングルスにおいて準決勝まで進んだスロベニア人は、ミマ・ヤウショヴェツ選手(1977年に全仏オープン女子シングルスで優勝)以来の快挙となった。準決勝敗

退後、ジダンシエク選手は「どちらのセットもチャンスがあったが、それを活かすことができなかった。でも、最後まで戦った。パフォーマンスには満足している」と述べた。同選手は、準決勝敗退時の世界ランキングは85位だったが、同大会での躍進により大幅なランキング上昇が見込まれる。

オリンピックポスターコンペティション、受賞作品決定

6月23日、スロベニア・オリンピック委員会は、スロベニア・オリンピック教育センターにおいて、スロベニア・パラリンピック委員会、スポンサーである「Europlakat」社とともに、オリンピックポスターコンペティション東京2020の受賞作品を公開発表しました。

23日に行われた受賞式では、スロベニア・オリンピックアカデミー会長のツェラル氏、ラザル・パラリンピック委員会会長、「Europlakat」社のコレニャク代表取締役、松島大使から、受賞作品を制作した3つの教育機関の校長に祝辞が送られました。



受賞作品公開式典の様子



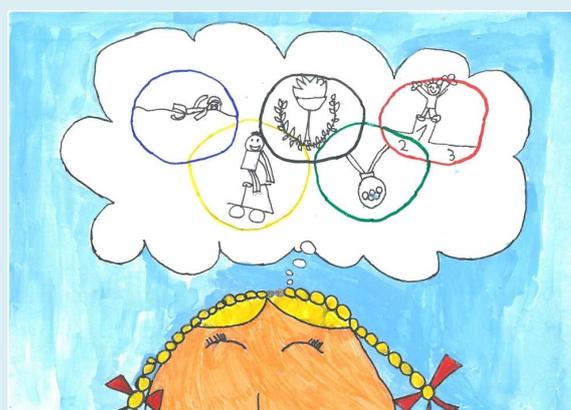
幼稚園の部受賞作品

オリンピックポスターはオリンピズムの重要なシンボルの1つとされており、最初の公式ポスターは1896年にアテネで開催された現代の最初のオリンピックのために作成されました。ポスターは、アスリート、会場、エンブレム、開催都市、国などの特徴をモチーフにデザインされ、オリンピック・ムーブメントの象徴とされています。

今回、スロベニアで公募されたポスターコンペティションには、スロベニア国内各地の幼稚園、プライマリースクール、セカンダリースクールから多くの子どもたちが参加し、300以上の作品が寄せられました。幼稚園、プライマリースクール、セカンダリースクールの各カテゴリーにおいて、松島大使も委員として参加している選考委員会が受賞ポスターを選考しました。

受賞作品は7月後半から、スロベニア全土に於いて、公共の場所に設置されている「Europlakat」社の大型広告掲示版に掲示されることになります。

ポスター賞を受賞したのは、ホリュル幼稚園の園児、ツェリエ・プライマリースクールの1年生、イエセニツェ・セカンダリースクールの3年生でした。受賞者には、記念として、今後スロベニア・オリンピック委員会が主催する遠足や当館が主催する日本文化体験に参加する権利が与えられます。



プライマリーの部受賞作品



セカンダリーの部受賞作品

(本稿の写真の出典：Aleš Fevžer, arhiv OKS)

スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282、Fax: +386-1-251-1822、Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当てて、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧ください。

http://www.si.emb-japan.go.jp/Living_in_Japan.html

【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●新型コロナウイルス:引き続き最新情報を入手し、感染予防に努めてください。当館HPでは、新型コロナウイルスに関する国内及び出入国規制等についてまとめたものを公開していますが、そちらもご覧ください。なお、規制は突然変更となる場合がありますので、最新情報についてはスロベニア当局にご確認いただくようお願いいたします。

【当館まとめページリンク】

https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00037.html

●新型コロナウイルス感染症で宿泊・自宅療養等をしている方で、一定の要件に該当する方は、令和3年6月23日以後に、その期日を公示又は告示される選挙から「特例郵便等投票」が可能になりました。在外選挙人名簿に登録されている方につきましても、帰国中に、新型コロナウイルス感染症により宿泊・自宅療養等を行い、一定の要件に該当する場合は、「特例郵便等投票」の対象になります(ただし、衆議院議員又は参議院議員の選挙における投票に限ります)。

「特例郵便等投票」の詳細につきましては、以下の当館HP掲載情報をご覧ください。

https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00419.html

【参考情報】

1. 外務省海外安全ホームページ

本サイトでは、各国・地域での新型コロナウイルスの発生状況、新型コロナウイルス(日本からの渡航者・日本人に対する各国・地域の入国制限措置及び入国・入域後の行動制限)等の情報を掲載しています。

<https://www.anzen.mofa.go.jp/>

2. たびレジ簡易登録

本サービスは、メールアドレスとメール配信を希望する国・地域を選択するだけで、当該在外公館から領事メールを受信することができます。ぜひご活用下さい。

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/simple/register>

3. スロベニア国立公衆衛生局は、国内状況や感染予防の方法等について公開しています。

<https://www.nijz.si>

(主にスロベニア語)

4. スロベニア政府が、新型コロナウイルスに関する特設サイトを開設しました。コロナウイルスに関連した保健省の特設電話番号はこちらに掲載されています。

<https://www.gov.si/en/topics/coronavirus-disease-covid-19/>

5. 新型コロナウイルス感染症に備えて ～一人ひとりができる対策を知っておこう～(首相官邸)

<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansensho/coronavirus.html>

6. 新型コロナウイルス感染症に関する情報について(厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

7. リュブリャナ空港ホームページ

<https://www.fraport-slovenija.si/en/Main>

8. スロベニア政府の下記のツイッターアカウント等で、随時情報発信が行われておりますので、こちらをご確認ください。

●政府(英語): <https://twitter.com/govslovenia>

●政府(スロベニア語): <https://twitter.com/vladars>
(英語版と若干内容が異なります。)

●外務省: <https://twitter.com/mzzrs>
(主にスロベニア語)

●保健省: <https://twitter.com/minzdravje>
(主にスロベニア語)

【広報文化班からのお知らせ】

●最新情報は、当館フェイスブックでチェック！

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia/>